



TITLE:

療疸ノ「コクチゲン」軟膏及ビ「ワクチン」軟膏ニ依ル治療成績比較

AUTHOR(S):

竹内, 次郎

CITATION:

竹内, 次郎. 療疸ノ「コクチゲン」軟膏及ビ「ワクチン」軟膏ニ依ル治療成績比較. 日本外科宝函 1936, 13(4): 523-533

ISSUE DATE:

1936-07-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/205641>

RIGHT:

療疽ノ「コクチゲン」軟膏及ビ「ワクチン」 軟膏ニ依ル治療成績比較

名古屋市民病院外科(伊藤繁博士)

大阪醫學士 竹 内 次 郎

Vergleich der Kaktigensalbe mit der Vakzinesalbe von Strepto- u. Staphylokokken im therapeutischen Erfolge bei Panaritium.

Von

Dr. Jiro Takeuchi

[Aus der chirurgischen Abteilung des städtischen Krankenhauses in Nagoya

(Leiter: Prof. Dr. Hajime Ito)]

Die zur Behandlung von Panaritium herangezogenen 2 Arten Salben enthielten einerseits das *Kaktigen*, andererseits die *Vakzine* von Staphylokokken und Streptokokken. Die beiden Salben wurden unter sonst ganz gleichen Bedingungen hergestellt und vom *Torikata*-Institut für Immunitätsforschung in Osaka geliefert.

Wir haben je 50 Panaritiumpatienten einerseits mit der Kaktigensalbe, andererseits mit der Vakzinesalbe behandelt, um die kurative Wirkung der beiden Salben miteinander vergleichen zu können.

Zur Behandlung haben wir je nach der Grösse des affizierten Fingers 1–3 g Salben 5 Minuten lang sanft eingerieben und den Rest der Salben mittels einfachen Verbandes dem kranken Finger appliziert. Die Applikation der Salben wurde jeden Tag erneuert.

Die Erfolge waren folgendes:

I. Bei der Kaktigensalbe.

- 1) 18 Fälle (36%) wurden durch Salbenapplikation allein geheilt.
- 2) 16 Fälle (32%) heilten durch Salbenapplikation und nachträgliche kleine Inzision.
- 3) 11 Fälle (22%) heilten durch Salbenapplikation und nachträglich grössere Inzision bzw. Entfernung des Nagels.
- 4) 5 Fälle (10%) wurden nicht geheilt.

Bis zur gänzlichen Heilung waren durchschnittlich 9 Tage erforderlich.

II. Bei der Vakzinesalbe.

- 1) 12 Fälle (24%) wurden durch Salbenapplikation allein geheilt.
- 2) 13 Fälle (26%) heilten durch Salbenapplikation und nachträgliche kleine Inzision.

3) 18 Fälle (36%) heilten durch Salbenapplikation und nachträgliche grössere Inzision bzw. Entfernung des Nagels.

4) 7 Fälle (14%) wurden nicht geheilt.

Die völlige Heilung nahm durchschnittlich 14,6 Tage in Anspruch.

(Autoreferat)

結 言

余等ハ『癰疽』ニ對シテ一方_Lコクチゲン₇軟膏, 他方_Lワクチン₇軟膏ヲ以テ治療ヲ施シ, ソノ治療成績ニ據リ, 兩者ノ優劣ヲ比較シタレバ此處ニ報告セントス。

_Lコクチゲン₇軟膏及_Lワクチン₇軟膏

鳥潟免疫研究所製50%連鎖球菌・葡萄球菌混合_Lコクチゲン₇軟膏(以下_Lコ₇軟膏ト略ス)及_Lビ₇ト同一出發材料, 同一_Lプロセント₇ノ連鎖混合_Lワクチン₇軟膏(以下_Lワ₇軟膏ト略ス)ヲ使用セリ。此等ハ_Lワクチン₇(60°C 30分加熱菌液)ト_Lコクチゲン₇(100°C 30分加熱菌液)トノ差アルノミニテ, ソノ他ハ全ク同一條件ノ下ニ拵ヘラレタルモノナリ。

治效觀察方法

患者ハ主トシテ本院通院患者ニ於テセルモ, 治療成績ノ觀察比較ニ便ナルタメ初診當時未ダ化膿シ居ラザリシ癰疽ノミヲ以テセリ。即チ昭和8年11月4日ヨリ昭和9年5月8日マデニ本院ヲ訪レタル患者中, 之ニ該當スル患者ハ總テ_Lコ₇軟膏ノ治療症例ニ, 又昭和9年6月29日ヨリ昭和10年7月2日マデノ患者ニシテ之ニ該當スルモノハ總テ_Lワ₇軟膏ノ治療症例ニ採入シ, ソノ間症狀ノ輕重等ヲ念頭ニ置カズ, 只ダ來ルガマ、ニ任カセ聊カモ患者症例ヲ取捨選擇セザリキ。

治療方法ハ先ヅ軟膏1.0乃至3.0瓦ヲ採リ, 之ヲ患部ニ日々1回5分間宛輕ク塗擦ヲナシ, 其ノ儘乾燥_Lガーゼ₇ヲ當テ、繃帶セリ。患者ニシテ一兩日ノ治療ヲ受ケタルノミニテ未ダ一定ノ經過ヲ觀察シ得ザル中ニ來院ヲ中止セルモノハ之ヲ除外セリ。

經過觀察ニ當リテハ全ク人爲的淘汰ヲ退ケ, 苟モ患者自ラ本療法以外ノ操作ヲ併セ施シタルモノハ一切之ヲ本症例中ヨリ除外セリ。斯クノ如クニシテ純正ニ_Lコ₇軟膏乃至ハ_Lワ₇軟膏ノミヲ以テ治療セラレタル患者各々50例ヲ蒐メテ比較セリ。

症例_Lプロトコル₇

_Lコ₇軟膏ニ依ル治療症例ハ第1表ノ如シ。

第 1 表 _Lコ₇軟膏ニ依ル治療症例

症例番號	姓 名 性 年 齡	現病歴及 _L 主徴候	爪ノ關係 有 無	經 過	經過分類 所 屬
1	糸○川○つ 女 65	4日前右手掌硝子片ニ依ル輕傷, ソノ後腫脹發赤疼痛	無	第3日ヨリ疼痛輕減, 第8日ニシテ以後治療ノ必要ヲ認メズ	A ₁
2	米○ 和○ 女 17	3日前ヨリ左拇指ノ疼痛。僅微ノ發赤腫脹局所熱	無	第2日ヨリ諸症減退, 第6日治癒	A ₁

3	荒○ 信○ 男 37	7日前右環指端ノ輕傷、ソノ後爪甲縁ニ接シテ輕度ノ發赤腫脹	有	第5日爪甲ニ接シテ限局セル小膿瘍形成穿刺。第13日治癒	B _I
4	渡○ 澄○ 女 19	16日前右環指爪甲ノ挫傷、爪甲周圍ノ發赤、腫脹疼痛局所熱	有	第4日ヨリ諸症減退、第9日全治	A _{II}
5	磯○ 文○ 男 26	6日前ヨリ左示指端ノ疼痛、3日前ヨリヤ、輕減。輕度ノ發赤腫脹局所熱	有	第2日ヨリ疼痛輕減、第6日治癒	A _I
6	磯○ 文○ 男 26	5日前右小指ニ輕傷、ソノ後疼痛。輕度ノ發赤腫脹	無	第3日全治	A _I
7	西○ 高○ 女 24	4日前左示指第1指節ニ局所麻酔ノ目的ニテ注射、ソノ後該注射部位ノ激シキ疼痛發赤腫脹、局所熱	無	第2日ヨリ疼痛輕減、ソノマ、第15日全治	A _I
8	森○ し○ 女 20	3日前左第1趾打撲後、搏動性疼痛。發赤、輕度ノ腫脹	有	第3日ヨリ疼痛輕減、第9日爪甲下ヨリ小木片出ヅ、以後治療ノ必要ヲ認メズ	B _{II}
9	西○ 寅○ 男 28	2日前ヨリ左拇指ノ疼痛ト熱感。爪甲下藍赤色、周圍發赤腫脹局所熱	有	第2日化膿、第3日爪甲一部切除、排膿第6日ヨリ炎症後退、第9日治癒	B _{II}
10	江○房○郎 男 23	7日前ヨリ左環指ノ疼痛、腫脹、手背部マデ浮腫性腫脹	無	第3日化膿、切開、第4日ヨリ諸症減退、第5日マデ來院 以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _{II}
11	細○ 豐○ 男 22	1日前ヨリ左示指ノ輕度ノ疼痛。僅カニ發赤	無	第4日ヨリ疼痛輕減、第7日治癒	A _{II}
12	近○千○代 女 26	8日前右示指第1指節ニ鳥骨ニヨル刺傷、疼痛。腫脹、發赤	無	第2日ヨリ疼痛輕減、第6日治癒	A _I
13	和○田○雄 男 21	3日前ヨリ右示指ノ疼痛。皮膚小皸裂アリ、ソノ周圍發赤腫脹局所熱	無	第2日限局性小膿瘍形成、皮膚切除排膿、第3日諸症輕快ス	B _I
14	平○ 清 男 19	4日前ヨリ左拇指ニ疼痛。腫脹、發赤	無	第4日限局性小膿瘍形成、切開。第5日ヨリ疼痛減退、第8日ニシテ治癒ノ必要ナキニ至ル	B _{II}
15	石○ や○ 女 22	7日前ヨリ右示指ニ腫脹疼痛。局所熱	無	第3日限局性小膿瘍形成、穿刺。第6日ヨリ疼痛減退、第8日ニシテ治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
16	後○ り○ 女 62	2日前右中指刺創、ソノ後疼痛ト腫脹。第1指節ヲ中心ニ手掌手背ニ互ル發赤、腫瘍局所熱	無	第4日迄炎症進行、第5日ヨリ後退シカケタルモ第7日以後ハ停止シソノマ、第31日マデ治療スルモ治セズ、以後來院セズ	C
17	菊○ 政○ 男 15	3日前ヨリ左足趾ニ疼痛、腫脹。僅微ノ發赤局所熱	無	翌日炎症進行ヲ示セルモ第3日ヨリ後退、第4日ニテ治療ノ必要ナキニ至ル	A _{II}
18	川○ 正○ 男 16	4日前ヨリ右手掌ニ疼痛ト腫脹。手掌全體ニ互ル發赤腫脹、局所熱、前腕部ノ淋巴管炎併發	無	第2日化膿切開、第6日ヨリ炎症後退シ初メ第38日ニテ治療ノ必要ナキニ至ル	B _{II}

19	山○ 爲○ 男 48	7日前ヨリ右中指ノ疼痛、腫脹	無	第2日ヨリ炎症後退、第3日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	A _I
20	牧○ 綾○ 女 23	3日前ヨリ右小指ノ疼痛。皮膚皸裂ヲ中心ニ發赤、腫脹	無	第3日化膿、穿刺、第7日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
21	各○ 紀○ 女 8	4日前ヨリ左拇指ノ疼痛。輕度ノ腫脹、局所熱	無	第6日限局性小膿瘍形成、穿刺ヲナスモンノ後モ炎症進行、第11日ヨリ減退、第18日全治	B _I
22	村○ よ○ 女 19	5日前ヨリ左中指ノ疼痛。腫脹	有	炎症進行、第4日化膿、穿刺。第5日疼痛ヤ、輕減、爪甲一部切除、以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _{II}
23	水○ 始○ 男 18	4日前ヨリ右拇指ノ疼痛。全體ニ互ル腫脹、先端輕度ニ發赤ス	無	翌日化膿、穿刺、第3日ヨリ後退シ始メ、第8日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
24	渡○ な○ 女 24	7日前ヨリ左中指ノ搏動性疼痛。腫脹、末節ニ於テ炎症高度	無	第2日化膿、穿刺セルニ骨粗面ヲ觸ル、第4日ヨリ炎症後退セルモ、排膿孔小二過ギ第8日再切開、以來治癒セザルマ、來院セズ	B _{II}
25	水○ 始○ 男 18	6日前ヨリ右手掌ノ疼痛。手背部ノ浮腫	無	第2日化膿、穿刺、第3日ヨリ後退シ始メ第5日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
26	杉○ 節○ 男 8	1日前ヨリ右手掌ノ疼痛、腫脹。中心帶青赤色手背ノ浮腫	無	第5日マデ炎症進行、限局性小膿瘍ヲ作ル、穿刺、第11日治癒	B _I
27	加○ 鎌○ 男 26	3日前ヨリ左足趾ノ疼痛。第一趾ニ互ツテ旺盛ナル炎症	無	第2日化膿、穿刺、第3日炎症更ニ進行、切開ス、第6日ヨリ炎症後退シ始メ第13日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _{II}
28	堀○ 道○ 女 21	1日前ヨリ右環指ノ疼痛。爪甲縁ニ沿フテ帶青赤色、局所熱、腫脹	有	第2日化膿、爪甲下ニ進行、切開。第12日爪甲除去、以後後退シ第15日ニシテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _{II}
29	片○ は○ 女 41	20日前右環指ノ輕傷、3日前ヨリ疼痛ヲ覺ユ。末節蒼白色腫脹	無	炎症進行、第4日化膿、穿刺、第6日ヨリ後退、第10日治癒	B _I
30	黒○ 陽○ 女 8	10日前ヨリ左拇指根部ノ疼痛、腫脹	無	第2日化膿、穿刺、第4日ヨリ後退、第5日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
31	水○ 千○ 女 22	2日前ヨリ右中指ノ疼痛。發赤、腫脹	無	第2日化膿、穿刺、第6日ヨリ後退、第11日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
32	鈴○ し○ 女 20	3日前ペン先ヲ左中指ニ刺シ損傷ス、後ソノ處ニ疼痛ヲ訴フ。損傷部ニ於ケル限局性ノ發赤ト腫脹	無	第2日化膿小膿瘍形成、切開セズ、ソノマ、軟膏塗擦ノミニテ第6日ヨリ後退、第9日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	A _{II}
33	渡○ き○ 女 18	3日前ヨリ右示指ノ疼痛。末節蒼白色ニ緊張	無	第4日化膿、小排膿孔ヲアケル及バス第5日切開、第7日疼痛ヤ、輕減、以後來院セズ	B _{II}
34	打○ 仙○ 男 38	10日前ヨリ左示指ノ疼痛ト腫脹。發赤、局所熱アリ、緊張ス	無	一時炎症後退セルモンノ後再び増悪、化膿、第7日切開、炎症停止、第22日ヨリ後退、第35日ニテ以後來院セズ	B _{II}

35	大○ や○ 女 47	5日前焼火箸ニテ左環指ヲ 突キタルニ、ソノアト發赤、 腫脹、熱感アリ	無	第5日化膿、穿刺、第6日諸症去リ、 以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
36	中○は○子 女 18	6日前ヨリ左拇指ノ疼痛ト 腫脹	無	第2日表在性ノ化膿、排膿、第13日 治癒	B _{II}
37	小○ 進 男 23	2日前ヨリ右拇指ノ疼痛。 先端稍々蒼白色ニ腫脹	有	第2日化膿、小排膿孔ヲ設ケルモ排 膿孔小ニ過ギ第五日ニ至ルモ炎症 後退セズ、ソノマヽ來院セズ	B _{II}
38	松○ 正○ 男 22	9日前ヨリ右環指ノ疼痛。 中間節蒼白色緊迫	無	炎症進行、第7日化膿、小孔ヲ施シ、 膿栓ヲ出ス、第9日ニテ腫脹減退、 以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
39	大○ マ○ 女 19	3日前ヨリ右拇指頭ノ疼痛	有	炎症進行、第4日化膿、一部爪甲ニ 接ス、皮膚小片切除、以後炎症後 退、第19日ニシテ以後治療ノ必要 ナキニ至ル	B _I
40	柳○茂○郎 男 53	10日前左拇指ノ魚骨ニヨル 刺傷ヲウケ、ソノアト腫脹 セルモ疼痛激シカラズ	無	翌日ヨリ炎症後退、第6日ニテ治 癒ス	A _I
41	大○ 重○ 男 19	7日前右第2趾ニ靴ズレヲ生 ジ3日前ヨリ疼痛ト腫脹アリ	無	第2日化膿、排膿孔ヲ設ク、第3日排 膿孔ヲ大キクス、第5日ヨリ後退、 第9日ニテ以後治療ノ必要ナキニ 至ル	B _{II}
42	奥○美○子 女 16	3日前ヨリ左拇指ノ疼痛、 末節ノ水泡形成	有	第6日マデ炎症停止、第8日減退殆 ンド全治	A _{II}
43	星○ 歡○ 男 25	1日前ヨリ右示指ノ搏動性 疼痛	無	第2日ヨリ疼痛軽減、第5日全治	A _I
44	植○ 清○ 男 26	15日前左第1趾輕傷、10日前 ヨリ腫脹ヲ來シ疼痛アリ。 發赤、腫脹、局所熱	無	第2日ヨリ疼痛軽減、第6日ニテ以 後治療ノ必要ナキニ至ル	A _I
45	金○ 文○ 女 6	5日前ヨリ左足趾ノ疼痛、 睡眠タメニ障碍サル、腫脹、 發赤、中心部稍々藍青色	無	第2日化膿、穿刺、第5日ヨリ減退シ 始メ第11日ニテ治癒	B _I
46	吉○ 信○ 男 21	5日前ヨリ右中指ノ疼痛ト 腫脹	無	第2日炎症停止、第7日ヨリ後退、第 15日殆ンド全治	A _{II}
47	松○ 光○ 女 20	4日前ヨリ右拇指頭ニ疼痛 ト腫脹。局所熱	無	第2日ヨリ炎症後退、第4日全治	A _I
48	廣○ 榮○ 男 23	7日前右足趾刺創、1日前ヨ リ疼痛、輕度ノ腫脹	無	第3日ヨリ減退、以後治療ノ必要 ナキニ至ル	A _I
49	安○ 建○ 男 28	2日前ヨリ右環指ノ疼痛。 指全體トシテ腫脹ス	無	第2日化膿、切開、第3日ヨリ炎症 後退、第4日ナホ炎症ヲ殘セルモ以 後治療ノ必要ナキニ至ル	B _{II}
50	中○ 新○ 男 27	2日前ヨリ左中指ノ腫脹。 疼痛輕度ノ發赤	無	第5日マデ炎症停止、第5日限局性 小膿瘍ヲ生ズ、排膿孔ヲ設ク、第 7日ヨリ炎症去リ、以後治療ノ必要 ナキニ至ル	B _I

「ワ」軟膏＝依ル治療症例ハ第2表ノ如シ。

第 2 表 「ワ」軟膏＝依ル治療症例

症例番號	姓 名 性 年 齡	現病歴及主徴候	爪ノ關係 有 無	經 過	經過分類 所 屬
1	上○松○郎 男 74	7日前ヨリ左第1趾ノ疼痛、腫脹。發赤爪甲ニ波及ス	有	第2日ヨリ諸症減退、第3日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	A _I
2	早○賢○ 男 47	3日前ヨリ右小指ノ疼痛。小指全體トシテ發赤、腫脹	無	第2日化膿切開、以來第12日ニ至ルモ輕快セズ、以後來院セズ	B _{II}
3	古○儀○郎 男 32	10日前右手掌ニ「しめ」ヲ生ジ疼痛アリ。腫脹及ビ輕度ノ發赤	無	第2日化膿切開、第4日ヨリ後退、第10日ニテ治癒ス	B _{II}
4	遠○弘○ 女 19	右環指ノ爪ヲ短ク鋏切リタルニ3日前ヨリ該指ノ指先ニ疼痛來ル。發赤ト腫脹	無	第2日化膿シ小排膿孔ヲ設ク、第3日粗糙ナル骨面ヲ觸レ、軟部ヲ廣ク切除ス、以後炎症停止第10日ヨリ後退、第39日全治セリ	B _{II}
5	尾○梅○ 男 42	1日前右示指ノ鳥骨ニ依ル輕傷ヲ受ケ疼痛アリ。創傷ハ淺ク既ニ乾燥シ、周圍ヤ、發赤腫脹	無	第2日ニシテ既ニ炎症去リ初メ、第3日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	A _I
6	細○豐○ 男 22	昨日「トタン」ノ鏑ガ右中指ニ刺リ、ソノ後疼痛アリ。輕度ノ發赤、腫脹	無	第2日化膿、小膿瘍形成、穿刺、第3日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
7	新○孝○郎 男 14	7日前左示指ニ小刀ニ依ル輕傷、ソノ後ソノアトニ疼痛。輕度ノ發赤、腫脹	無	第3日限局性小膿瘍形成、穿刺。第6日マデ炎症進行、第7日ヨリ減退、第10日殆ンド全治	B _I
8	角○は○ 女 20	2日前ヨリ右拇指ノ壓痛。他覺の所見ナシ	有	徐々ニ進行、第7日化膿、爪甲一部切除、第9日更ニ一部切除、第10日全治	B _{II}
9	野○と○ 女 23	3日前ヨリ右拇指ノ疼痛。該指ノ輕度ノ發赤、手背部ノ浮腫	無	第3日化膿、穿刺、以後炎症後退シ、第8日ニテ治癒	B _I
10	梅○八○三 男 32	3日前ヨリ左環指ノ疼痛。第2指節背面ノ限局サレタル腫脹、發赤並ニ局所熱	無	第3日化膿、穿刺ヲナスモ輕快セズ第6日ニテ、炎症ヲ殘セル儘以後來院セズ	B _{II}
11	平○美○ 女 22	1日前蝦ノ殻ヲ右示指ニ刺シソノアトニ疼痛ガアル。末節ノ輕度ノ發赤ト腫脹	無	第2日ニシテ發赤、腫脹共ニ去リ、疼痛輕快、殆ンド治癒ス	A _I
12	石○千○子 女 20	5日前ヨリ右中指端ノ疼痛、昨日ヨリ稍ノ激シ、腫脹、輕度ノ發赤	無	炎症一進一退第7日化膿、切開、第11日殆ンド全治	B _{II}
13	野○き○ 女 59	約半ヶ月前輕傷ヲ受ケタル右拇指3日前ヨリ痛ム。第1指節ノ腫脹、輕度ノ發赤、手背部ニ互ル浮腫	無	第2日化膿、切開、第3日疼痛輕快、膿中等度、以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _{II}
14	藤○祐○ 男 19	約10日前小刀ニテ輕傷ヲ受ケタル左中指7日前ヨリ疼痛アリ、昨日ヨリ激シ。背面ノ發赤、腫脹	無	第2日炎症進行セルモ第4日後退、以後治療ノ必要ヲ認メズ	A _{II}
15	山○長○郎 男 40	2日前ヨリ右手掌部ノ疼痛。小指球ニ於ケル發赤腫脹	無	第2日ヨリ炎症限局性ニナリ、第4日ニシテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	A _I

16	加○ 節○ 女 19	5日前ヨリ右拇指ノ搏動性疼痛。末節ノ帶青赤色腫脹	有	第3日化膿、排膿孔ヲアケ、爪甲一部除去、以後炎症後退第7日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _{II}
17	岡○ た○ 女 42	2日前ヨリ右拇指端ノ疼痛。指背部ノ發赤、腫脹局所熱	有	第12日ヨリ腫脹減退、第31日全治	A _I
18	尾○ 清○ 男 21	2日前ヨリ右拇指ノ疼痛。指背部ニ於ケル發赤、腫脹、局所熱	無	第3日ヨリ炎症後退、第8日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	A _{II}
19	石○ み○ 女 33	9日前ヨリ左小指ニ疼痛アリ、腫脹ス。末節ノ發赤腫脹	有	第2日化膿、小切開、以後炎症後退、第10日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
20	水○か○子 女 27	7日前ヨリ右中指ニ疼痛アリ。爪甲ノ周圍、發赤腫脹、局所熱	有	第2日ヨリ疼痛、第3日ヨリ腫脹減退シ初メテ第8日治癒セリ	A _I
21	大○ 一○ 男 20	3日前ヨリ右環指ノ疼痛。ゴク輕度ナル發赤ト腫脹	無	第2日皮下ニ膿瘍形成、小切開、以來後退シ、第9日治癒	B _I
22	太○ 宏○ 女 13	2日前ヨリ右中指ノ疼痛。指先緊張シ稍く冷シ	有	第4日マデ炎症後退、1時停止セル後再び進行、第9日爪甲下ニ膿瘍形成、爪甲一部切除シ第25日治癒	B _{II}
23	酒○ 春○ 女 17	以前ヨリ凍傷アリタル左示指昨日ヨリ疼痛併發セリ。屈側面ノ腫脹、局所熱	無	第2日化膿、穿刺。後退シ第8日全治	B _I
24	山○す○子 女 20	2日前ヨリ右拇指疼痛アリ、睡眠タメニ障礙サル。指先緊張シ蒼白	無	第3日マデ炎症後退セルモ後再び進行、第5日皮下ノ限局性小膿瘍ヲ形成、第6日、第8日切開、第17日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _{II}
25	上○ 直○ 男 49	1日前ヨリ右中指ノ疼痛アリ、惡感ヲ伴フ。第1、第2指節ノ腫脹、發赤、局所熱	無	炎症進行、第3日切開、粗糙ナル骨面ヲ觸ル、更ニ進行第8日再切開以後後退シ第18日炎症ナホ殘レルマ、來院ヲ中止セリ	B _{II}
26	平○ひ○を 女 40	3日前ヨリ左足趾腫脹、疼痛。局所ノ發赤、溫感、腫脹、同側下腿淋巴管炎	無	第2日皮下膿瘍形成、小切開、以後後退、第25日治癒	B _I
27	澤○銀○郎 男 56	以前古針ニテ輕傷ヲ受ケタル右示指4日前ヨリ疼痛、腫脹	無	第2日膿瘍形成、穿刺、第12日ヨリ漸ク後退、第22日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
28	須○ま○子 女 19	4日前ヨリ右環指端ノ疼痛。發赤、腫脹	無	進行シ第5日化膿、小切開、以來後退、第9日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
29	大○ 勇○ 男 20	5日前ヨリ右示指端ノ疼痛ト腫脹。輕度ノ發赤	無	進行。第4日化膿、小切開、及バズ第6日切開、第8日再切開ニヨリ粗糙ナル骨面ヲ觸ル、以來後退、第18日ニテ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _{II}
30	村○ま○子 女 18	7日前ヨリ左示指端ノ疼痛。輕度ノ腫脹稍く緊迫ス	無	進行。第6日化膿、小切開、以後後退、第15日尙輕度ノ炎症ヲ殘セルマ、以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
31	岩○ 伸○ 男 21	5日前ヨリ右手掌ノ疼痛、昨夜睡眠障礙サル。輕度ノ發赤、腫脹、硬結	無	第2日緊張ヲ去ル目的ニテ切開セルモ炎症進行シ第3日前膊ノ淋巴管炎併發、第4日炎症停止ニテ以後來院セズ	B _{II}

32	中○爲○ 男 60	2日前ヨリ右拇指ノ疼痛。 局所熱アルノミ	無	第2日皮下小膿瘍形成、小切開及バズ、第5日再切開、第11日ヨリ炎症退行、第44日全治	B _{II}
33	和○ふ○子 女 22	約10日前ヨリ左中指ノ疼痛 3日前切開、排膿、創面治癒 セルモ昨日ヨリ再ビ疼痛増 ス	無	第3日炎症退行、以後治療ノ必要ナ キニ至ル	A _I
34	黒○さ○の 女 19	10日前ヨリ左示指ノ疼痛ト 腫脹。輕度ノ腫脹ト壓痛	有	第2日炎症爪甲下ニ進行、第8日爪 甲除去以後炎症後退、第15日全治	B _{II}
35	土○つ○ 女 18	2週間前ヨリ右示指頭ニ疼痛 アリ、數日前ヨリハ睡眠 タメニ障礙サル。末節ノ腫 脹ト局所熱、緊迫	無	第3日僅ニ化膿、小切開ヲナスモ及 バズ、第7日切開、粗糙ナル骨面ニ 觸ル、第17日ヨリ後退、第27日殆 ソ全治	B _{II}
36	井○春○ 男 24	3日前ヨリ右手掌ノ一部ニ 疼痛。旺盛ナル炎症、發赤、 腫脹、局所熱	無	第2日深部ニテ化膿、切開、ソノ後 一進一退、快方ニ向ハズ、第69日瘻 孔ヲ殘シテ以後來院セザルニ至ル	B _{II}
37	生○初○郎 男 25	4日前ヨリ左中指頭ノ疼痛。 屈側面ノ腫脹、輕度ノ發赤、 ヤ、帶青色	無	第2日化膿、穿刺、以後炎症後退、第 8日ニテ治癒	B _I
38	朽○道○ 女 20	9日前右示指ニ竹片ニヨル 刺傷、ソノアト化膿シ、後創 面ハ治癒シタルモ疼痛ノミ 去ラズ。乾燥セル刺傷ノ周 圍ニ腫脹輕度ノ發赤局所熱	無	炎症進行、第5日化膿、切開以後炎 症停止、第14日ヨリ炎症後退ノ途 ヲトルモ徐々、創面治癒機轉弱ク 第37日ニテ以後治療ノ必要ナキニ 至ル	B _{II}
39	水○つ○ 女 27	7日前ヨリ右中指ノ疼痛。 アカギレヲ中心ニ發赤、 腫脹、局所熱	無	第2日化膿、切開以後炎症停止、第6 日ヨリ後退、第17日治癒	B _{II}
40	豐○充○ 女 28	10日前右小指ノノサ、クレ ヲトリタルアト1日前ヨリ 脈搏性疼痛ヲ招來セリ。末 節ノ輕度ノ發赤、腫脹	有	第3日爪甲縁ニ接シテ小膿瘍ヲ作 ル、穿刺、第5日ヨリ後退、第8日ニ テ以後治療ノ必要ナキニ至ル	B _I
41	桐○優○ 男 19	3日前ヨリ右中指ノ疼痛性 腫脹、旺盛ナル炎症、浮腫 強シ	無	炎症進行、第3日化膿、第4日切開 第5日ヨリ漸次後退、第21日治癒	B _{II}
42	曹○馬 男 26	1日前ヨリ左環指々端ノ疼 痛。爪縁ニ接シ發赤、腫脹、 局所熱	有	第2日化膿、同日穿刺ヲナスモ爪甲 下ニ侵入シ、第13日爪甲除去、第16 日ヨリ炎症後退、第50日ニテ治癒 セリ	B _{II}
43	淺○す○ 女 20	4日前ヨリ左示指々頭ニ疼痛、 腫脹アリタルモ、昨日ヨ リヤ、輕快セリト。輕度ノ 發赤、腫脹	無	第4日炎症既ニ去リ居リ、以後治療 ノ必要ナキニ至ル	A _I
44	森○新○郎 男 19	3日前竹片ヲ右中指ノ爪甲 下ニ刺入シ直ニ拔去リタル ニソノ翌日ヨリ疼痛アリ 睡眠障害サル。指頭全體ニ 互ル發赤、腫脹、局所熱緊迫	無	第2日化膿、穿刺ヲナスモ及バズ第 3日切開、以來後退シ第20日治癒 セリ	B _{II}
45	渡○雪○ 女 20	5日前ヨリ左小指ノ疼痛。 腫脹、緊張、局所熱	有	第10日爪甲下ニ小膿瘍ヲ形成、第 11日爪甲除去、以來炎症漸次ニ去 リ、第22日治癒ス	B _{II}
46	水○ス○子 女 17	2日前ヨリ左拇指ノ爪甲縁 トニ壓痛ヲ訴フ。爪溝ニ沿 フテ輕度ノ發赤ト腫脹	有	第3日ヨリ炎症後退、第4日殆ソ全 治	A _{II}
47	河○と○子 女 19	1日前ヨリ左拇指頭ニ疼痛 ト腫脹。發赤ト局所熱	有	第2日爪甲縁ニ接シ爪甲下ニ小膿 瘍ヲ形成、ソノ儘放置シタルニ翌 日ヨリ退色、吸收サレ第6日ニシテ 以後治療ノ必要ナキニ至ル	A _{II}

48	北〇 ト〇 女 50	4日前左拇指ニ何カ異物ヲ刺入シタラシクコレヲトリ出サント針ニテ掘リタルニ疼痛益々増加セリ。瀰漫性ノ腫脹ト發赤。	無	炎症進行シ第6日化膿、自潰シ、第10日切開セルニ粗糙ナル骨面ヲ觸ル、以來炎症ヤ、後退セルモ第22日以來未治ノ儘來院セズ	B _{II}
49	近〇 き〇 女 27	4日前炊事中右拇指根部ニ疼痛ヲ覺ヘタルニソノ後コノ部ニ腫脹シ來レリ。發赤ト腫脹、硬結	無	第2日表在性ノ小膿瘍形成、穿刺ヲナスモ進行シ第6日深部ニ化膿ヲ起コセルモ、第7日ヨリ後退、第16日殆ド全治	B _I
50	中〇し〇子 女 23	3日前右小指ノ爪甲附近ノ「サ、クレ」ヲトリソノ後ニ疼痛來ル。爪甲ニ接シテ發赤ヤ、帶青色、腫脹、局所熱	有	第2日化膿穿刺ヲナスモ炎症進行シ爪甲下ニ侵入、第5日ニテ以來治癒セザルマ、來院セズ	B _{II}

治療成績比較

以上兩軟膏ニ依ル治療成績ヲ (1) 経過ニヨリ、更ニ之ヲ (2) 爪ニ關係アルモノ、ミ及ビ (3) 爪ニ關係ナキモノ、ミニ分チテソノ経過ニ從ヒ分類比較シ、(4) 且ツソノ経過分類各項ノ全治マデノ平均治療日數ヲ比較セルニ第3表ヨリ第6表マデノ成績ヲ得タリ。

第 3 表 経過ニ據ル比較表 (太字……「コ」軟膏, 細字……「ワ」軟膏)

總數 { 50 }	A 塗擦ノミニテ治癒セルモノ { 12(24%) 18(36%) }	I 炎症直チニ消退セルモノ { 8(16%) 12(24%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 4.1 5.9 }	
			平均治療日數 { 7.3 6.0 }	
	B 塗擦以外ノ操作ヲ要シタルモノ { 38(76%) 31(62%) }	II 炎症初メ短期間ソノ儘ニ停止セルカ、或ハヤ、進行セルモ終ニ後退セルモノ { 4(8%) 6(12%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 3.0 5.9 }	
			平均治療日數 { 5.5 8.7 }	
總數 { 50 }	A 塗擦ノミニテ治癒セルモノ { 12(24%) 18(36%) }	I 限局セル小膿瘍ヲ作リコレニ穿刺ヲ加ヘタルノミニテ治癒セルモノ { 13(26%) 16(32%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 4.1 4.4 }	
			平均治療日數 { 11.6 9.4 }	
	B 塗擦以外ノ操作ヲ要シタルモノ { 38(76%) 31(62%) }	II 爪甲ノ一部又ハ全部ヲ除去、或ハ切開ヲ要セシモノ { 25(50%) 15(30%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 4.6 3.5 }	
			平均治療日數 { 22.1 11.6 }	
總數 { 14 }	A 塗擦ノミニテ治癒セルモノ { 5(35.7%) 3(30%) }	I 治癒セルモノ { 8(57.2%) 6(60%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 18.9 11.7 }	
			平均治療日數 { 10.4 7.7 }	
	B 塗擦以外ノ操作ヲ要セシモノ { 9(64.3%) 7(70%) }	II 治癒セザル中ニ來院ヲ中止セルモノ { 1(7.1%) 1(10%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 3.1 5.3 }	
			平均治療日數 { 11.6 9.4 }	
總數 { 10 }	A 塗擦ノミニテ治癒セルモノ { 5(35.7%) 3(30%) }	I 治癒セルモノ { 8(57.2%) 6(60%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 18.9 11.7 }	
			平均治療日數 { 10.4 7.7 }	
	B 塗擦以外ノ操作ヲ要セシモノ { 9(64.3%) 7(70%) }	II 治癒セザル中ニ來院ヲ中止セルモノ { 1(7.1%) 1(10%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 3.1 5.3 }	
			平均治療日數 { 11.6 9.4 }	
總數 { 10 }	A 塗擦ノミニテ治癒セルモノ { 5(35.7%) 3(30%) }	I 治癒セルモノ { 8(57.2%) 6(60%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 18.9 11.7 }	
			平均治療日數 { 10.4 7.7 }	
	B 塗擦以外ノ操作ヲ要セシモノ { 9(64.3%) 7(70%) }	II 治癒セザル中ニ來院ヲ中止セルモノ { 1(7.1%) 1(10%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 3.1 5.3 }	
			平均治療日數 { 11.6 9.4 }	
總數 { 10 }	A 塗擦ノミニテ治癒セルモノ { 5(35.7%) 3(30%) }	I 治癒セルモノ { 8(57.2%) 6(60%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 18.9 11.7 }	
			平均治療日數 { 10.4 7.7 }	
	B 塗擦以外ノ操作ヲ要セシモノ { 9(64.3%) 7(70%) }	II 治癒セザル中ニ來院ヲ中止セルモノ { 1(7.1%) 1(10%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 3.1 5.3 }	
			平均治療日數 { 11.6 9.4 }	

第 4 表 爪ニ關係アルモノノミノ経過ニ據ル比較表

(太字……「コ」軟膏, 細字……「ワ」軟膏)

總數 { 14 }	A 塗擦ノミニテ治癒セルモノ { 5(35.7%) 3(30%) }	I 治癒セルモノ { 8(57.2%) 6(60%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 18.9 11.7 }	
			平均治療日數 { 10.4 7.7 }	
	B 塗擦以外ノ操作ヲ要セシモノ { 9(64.3%) 7(70%) }	II 治癒セザル中ニ來院ヲ中止セルモノ { 1(7.1%) 1(10%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 3.1 5.3 }	
			平均治療日數 { 11.6 9.4 }	
總數 { 10 }	A 塗擦ノミニテ治癒セルモノ { 5(35.7%) 3(30%) }	I 治癒セルモノ { 8(57.2%) 6(60%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 18.9 11.7 }	
			平均治療日數 { 10.4 7.7 }	
	B 塗擦以外ノ操作ヲ要セシモノ { 9(64.3%) 7(70%) }	II 治癒セザル中ニ來院ヲ中止セルモノ { 1(7.1%) 1(10%) }	發病後治療開始マデノ平均日數 { 3.1 5.3 }	
			平均治療日數 { 11.6 9.4 }	

第 5 表 爪＝關係ナキモノノミノ經過＝據ル比較表

(太字……Lコ軟膏・細字……Lワ軟膏)

總數 { 36 40	塗擦ノミニテ 治癒セルモノ	{ 7(19.4%) 15(37.5%)	……平均治療日數 { 4.0 6.7
	塗擦以外ノ操 作ヲ要セシモノ	{ 29(80.6%) 24(60%)	{ 治癒セルモノ { 23(63.9%) 21(52.5%) } ……平均治療日數 { 17.3 10.0
	治癒セザル中ニ來院ヲ中止セルモノ	{ 6(16.7%) 3(7.5%)	

第 6 表 全治マデノ平均治療日數ノ比較表 (太字……Lコ軟膏・細字……Lワ軟膏)

總數 { 50例, 14.6日 50例, 9.0日	塗擦ノミニテ 治癒セルモノ { 12例, 6.7日 18例, 6.9日	{ 炎症直チニ後退セルモノ { 8例, 7.3日 12例, 6.0日 炎症初メ短期間ソノ 儘ニ停止セルカ、或 { 4例, 5.5日 ハヤ、進行セルモノ終 { 6例, 8.7日 ニ後退セルモノ
	塗擦以外ノ操 作ヲ要セシモノ { 38例, 17.7日 31例, 10.3日	{ 限局セル小膿瘍ヲ作りコレニ穿刺 { 13例, 11.6日 ヲ加ヘタルノミニテ治癒セルモノ { 16例, 9.4日 爪甲ノ一部又 { 25例, 22.1日 { 治癒セルモノ { 18例, 22.1日 ハ全部ヲ除去 { 15例, 11.6日 { 治癒セルモノ { 11例, 11.6日 或ハ切開ヲ要 { 15例, 11.6日 { 治癒セザル中ニ來院 { 7例 セシモノ { 15例, 11.6日 { 治癒セザル中ニ來院 { 7例 ヲ中止セルモノ { 4例

今此等ノ表ヲ觀ルニ、經過ニヨル比較(第3表)ニ於テ、軟膏塗擦以外ニ何等操作ヲ要セズシテ治癒シタルモノハLコ軟膏ノ36%ニ對シテLワ軟膏ハ24%ヲ示シ、又他ノ操作ヲ要シタルモノ、中ニテモ僅ニ穿刺ノミニテ治癒シタルモノハLコ軟膏ノ32%ニ對シテLワ軟膏ハ26%ヲ示シタリ。

然ルニ爪ヲ除去スルカ或ハ比較的大ナル切開ヲ要シタルモノハLワ軟膏ニテハ50%ナルニ對シテLコ軟膏ニテハ30%ナリキ。

即チ理想的治癒ノ經過ヲトリタルモノハLワ軟膏ニテハ50%ナリシニ對シテLコ軟膏ニテハ70%ニシテ、Lコ軟膏ノ治癒成績ハ20%ダケ大ナリ。

此際特ニ余等ノ注意ヲ惹キタルハ兩軟膏中ニハ鎮痛劑ノ混合ナキモ、諸症狀ノ中、先ヅL疼痛ノガ輕減セラル、コトニシテ、殊ニLコ軟膏ニ於テ多數ナリキ。

例ヘバLコ軟膏症例第1, 5, 7, 17, 46例ノ如ク塗擦ニ依リ他覺的所見ガ未ダ消退ヲ示サマルニ先立チ、自覺的ニ先ヅ疼痛ノ輕減ヲ來シタリ。

疼痛緩解ノ顯著ナル例症ニアリテハ他覺的ニハ一時炎症ノ進行ヲ示セルモ、自覺的ニハ却ツテ疼痛ノミガ先ヅ輕減シ、然後、他覺的所見ガ除々ニ消退ノ路ヲ辿リタルガ如キ場合ヲモ認メタリ(第17例)。カルル例ハLワ軟膏ニ於テモ第20例ニ於テ認メラレタリ。

發病後醫治ヲ乞フ迄ノ經過日數ガ豫後ニ影響スルハ勿論ナリ。即チ一般ニハ發病後醫療ヲ受

クルニ至ルマデノ經過日數ノ大ナルモノ程、難治ナルベキ理ナリ。依テ發病後治療開始マデノ平均日數ヲ兩軟膏症例ニ就キ調べタルニ、事實ハ之ニ一致セズシテ L コ L 軟膏症例ニ於テハコノ過經日數ノ比較の大ナルモノガ却テ容易ニ治癒シ居リ、又 L ワ L 軟膏ニ於テモ最モ治癒成績不良ナリシ頃、即チ治癒セザル中ニ來院ヲ中止セルモノハ發病後平均僅ニ3.1日ヲ經過セルノミニテ醫治ヲ乞ヒ居リ、一見不合理ノ如ク考ヘラレルモ、コハ炎症ノ進行速度ノ種々アルヲ裏書キスルモノニシテ、炎症ガ比較的輕微ナラバ患者ノ醫治ヲ乞フノ晚キハ當然ノ理ニシテ、之等ノモノ、容易ニ治癒シ易キモ亦タ首肯シ得ル所ナリ。從テ發病後治療開始迄ノ經過日數ハ之ヲ全體ヨリ觀タル場合ニ於テハ兩軟膏ノ治療成績比較ニハ大ナル影響ヲ與ヘザリシモノト思惟サル。

次ニ第4表ニ示サレタルガ如ク L 瓜ニ關係アルモノ、經過ニヨリ比較スルニ、 L コ L 軟膏ノ塗擦ノミニテ治癒シタルモノ30%ニ對シ、 L ワ L 軟膏ハ35.7%ヲ示シ、理想的治癒率ノ上ヨリシテハ L ワ L 軟膏ノ方ガ5.7%ダケ優秀ナル結果ヲ示セリ。

然レドモ平均治療日數ハ L ワ L 軟膏ノ10.4日ナリシニ對シ、 L コ L 軟膏ニテハ7.7日ニシテ、 L コ L 軟膏ノ方ガ2.7日ダケ短縮セラレタリ。

以上ノ點ニ就テハ更ニ多數ノ例症ニ就テ觀察比較セバ正鵠ヲ得ルナラン。

次ニ L 瓜ニ關係ナキモノ、經過ニヨリ比較(第5表)ニ於テハ L コ L 軟膏ノ塗擦ノミニテ治癒セルモノハ37.5%ナルニ對シ、 L ワ L 軟膏ノ方ハ19.4%ニシテ、理想的治癒率ノ上ヨリシテハ L コ L 軟膏ノ方 L ワ L 軟膏ニ比シ約2倍ノ良成績ヲ示シタリ。然レドモ平均治療日數ニテハ L ワ L 軟膏ハ4.0日ナリシニ對シ L コ L 軟膏ニテハ6.7日ニシテ2.7日ダケ長キヲ要シタリ。

最後ニ第6表經過分類各項ノ全治マデノ平均治療日數ノ比較ニ於テハ L ワ L 軟膏ノ14.6日對シテ、 L コ L 軟膏ニテハ9.0日ヲ算シ、5乃至6日ノ經過短縮ヲ示セリ。

該比較表ノ各項ヲ見ルニ塗擦ノミニテ治癒セルモノ、項ノ如ク炎症輕度ナル症例ニ於テハ平均治療日數ハ兩者共ニ大差無キカ、或ハ L ワ L 軟膏ノ方ガ僅ニ短キ結果ヲ見ルモ、コレニ反シ穿刺ノ必要アリタルモノ、又ハ L 瓜甲除去或ハ切開ヲ要シタルモノ、如キ難治ナル症例ニ於テハ、 L コ L 軟膏ハ L ワ L 軟膏ヨリモ平均7.3日ダケ治療經過ヲ短縮シ、此點顯著ニ優秀ナル成績ヲ示シタリ。

全治マデノ平均治療日數ノ比較表(第6表)ニ於テハ、治癒セザル中ニ來院ヲ中止セル症例(即チ L ワ L 軟膏ニ於テ7例、 L コ L 軟膏ニ於テ5例)ノ治療日數ハコレヲ計算ヨリ除キタリ。

結 論

瘰癧ノ免疫元軟膏塗擦法ニ於テハ、 L ワクチン L 軟膏ヲ使用スルヨリモ L コクチゲン L 軟膏ヲ使用スル方ガ、優秀ナル成績ヲ收メ得ルモノナルコトヲ認メタリ。

附記——本稿ハ既ニ神戸ニ於ケル第41回近畿外科學會(昭和10年10月27日)ニ於テソノ概略ヲ公表シタリシガ、ソノ後更ニ症例ヲ重ネテ精査檢討シタル結果、平均値ソノ他ニ於テ僅ニ差異ヲ來シタルモ、大勢ニ於テハ結論ヲ動搖セシムルガ如キモノニ非ズ。讀者之ヲ諒セヨ。